

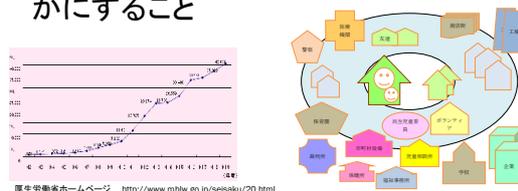
こども虐待に対する 保健師の支援

○小笹美子¹⁾ 長弘千恵²⁾ 斉藤ひさ子³⁾

1) 琉球大学医学部保健学科 2) 国際医療福祉大学福岡看護学部
3) 佐賀大学医学部看護学科

目的

こどもの虐待を早期に発見し予防へつなげる体制を整備するために、行政機関に働く保健師のこども虐待への支援活動について明らかにすること



研究方法

- 調査期間:平成22年9月1日から平成22年10月30日
- 調査対象者:沖縄県、福岡県、佐賀県、岡山県、東京都(23区を除く)、札幌市、神戸市の市町村、保健所等行政機関に勤務する保健師2705名 (回収数は1197名、回収率は44.3%)
- 調査方法:郵送による自記式アンケート調査
- 調査項目:基本的属性、こども虐待事例経験の有無、こども虐待で保健師が果たす役割、保健師が実施した支援など
- 分析方法:分析は統計解析ソフトSPSSver19を使用、統計学的有意水準は1%未満
- 倫理的配慮:アンケートへの回答をもって同意とした、琉球大学疫学倫理審査委員会による承認を得た

用語の定義

本研究では児童虐待の防止等に関する法律の児童虐待の定義を参考に、こども虐待を「未成年者に対する保護義務者の虐待で、身体的・心理的・性的・ネグレクトのすべてを含む」とした。

本研究の調査対象となる行政機関の保健師がかかわる虐待事例は出生直後から就学前の乳幼児が多いと考えられるため本研究では「こども虐待」と表現した。

対象者の基本的属性

N=1197(%)

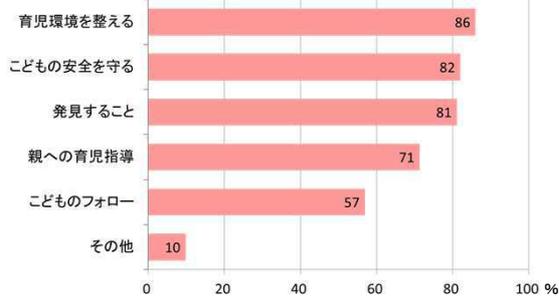
性別	男	26 (2.2)	身分	正規職員	1010(84.4)
	女	1154(96.4)		非正規職員	103(8.7)
平均年齢		39.0	人口規模	1万人以下	48 (4.0)
平均経験年数		14.0		1~4万人	244 (20.4)
年代	20代	252 (21.1)		5~9万人	171 (14.3)
	30代	384 (32.1)		10~19万人	155 (12.9)
	40代	300 (25.1)		20万人以上	337 (28.2)
	50代以上	218 (18.3)	経験事例数 (含む疑い)	10事例以上	311(33.1)
	勤務先	市町村		902 (75.3)	3~9事例
保健所		272 (22.8)		1~2事例	272(28.8)
その他		9 (0.8)	経験無し	223(18.6)	

保健師のこども虐待へのかかわり

	N=1197	
	人	%
こども虐待に関心がある	1173	98.0
地域住民から相談を受けたことがある	788	65.8
医療機関から連絡を受けたことがある	607	50.7
現在母子保健業務を担当	544	45.4
要保護児童対策地域会議(虐待予防ネットワーク)に参加したことがある	605	50.5
こども虐待の研修を受講した	825	68.9
仕事以外でこども虐待事例を見たり聞いたりしたことがある	487	40.7

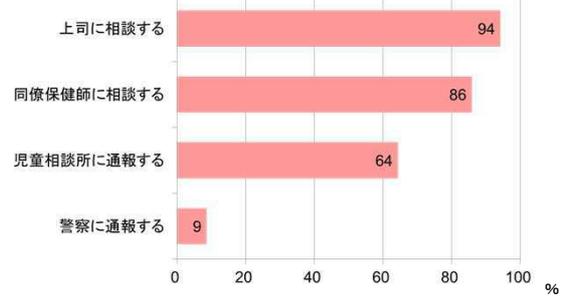
こども虐待支援で保健師が果たす役割

N=1197(複数回答)



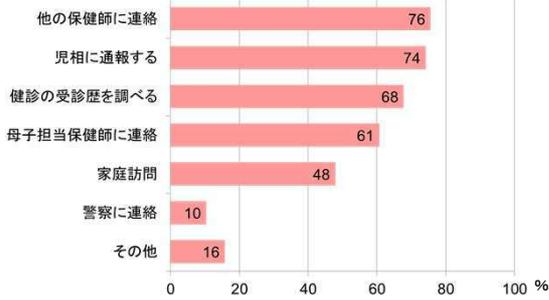
こども虐待を疑ったときの対応

N=1197(複数回答)



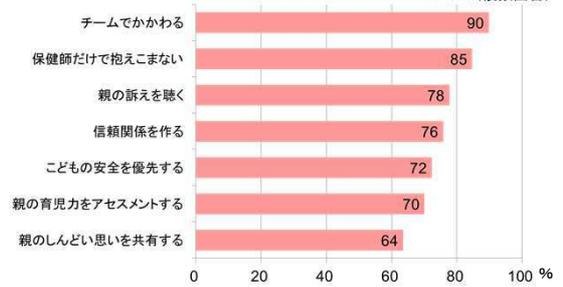
住民から通報・連絡を受けたときの対応

N=1197(複数回答)



保健師が支援した内容

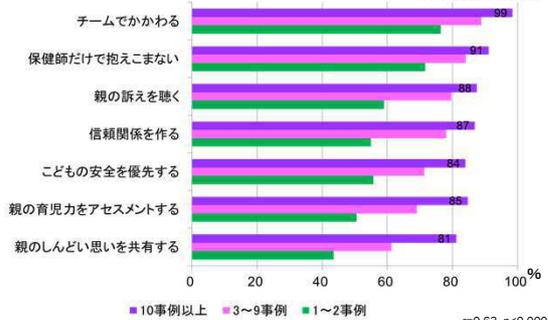
N=945(複数回答)



保健師が支援した内容

—経験事例数別—

N=945(複数回答)



希望する研修内容(抜粋)

- 実際に支援が上手くいった事例を通して、そのノウハウを学びたい。
- 成功している経験から学びたい
- 事例を通して、法律や児相の対応の現状を学ぶ。その中から市町村で行うべきことを考える
- 事例をふり返りながら虐待予防のためにどうすべきであったかどうかすれば虐待が防げたかを考える研修、具体的な方策
- 事例を通して、連携の仕方や保健師の役割を学びたい
- 虐待疑いを見抜く方法と関わり方
- こういう時はどういう対応をしたらよいかという事例検討
- 虐待についての対応事例を通して、対処の方法を学びたい
- 事例検討会が最も良いが、あまり事例を持っていないところでは、豊富に事例を持っているところへ出かけて行って学ぶことも必要
- 親への対応。親への支援プログラム(ペアレントトレーニングについて)
- 虐待の早期発見・継続支援(ネットワーク)「虐待の見分け方」
- 虐待だというボーダーライン、ある程度の基準があれば、判断に自信を持って、介入しやすい
- 児相、警察への通報のタイミング

まとめ

- こども虐待事例を1事例以上経験した保健師は79%であった。
- こどもの虐待を疑った保健師の9割以上は上司や同僚保健師に相談し、住民からこども虐待の連絡を受けたときは74%が児童相談所に通報している。
- 保健師はチームで支援にかかわり、親の訴えを聞きつつ信頼関係を築いていた。経験事例数が多い保健師は少ない保健師に比べて支援内容が有意に多かった。

終わり

